

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4770600205
法人名	医療法人 真寿会
事業所名	グループホーム まきや
所在地	沖縄県宮古島市平良字西原2251番地147 (電話) 0980-72-4165

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年12月9日

## 【情報提供票より】(20年10月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 8 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 円	その他の経費(月額)	光熱水費 日額300 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.0 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	真喜屋精神神経科医院、真喜屋歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市街地からおよそ5km離れたサトウキビ畑が広がる田園地帯、福山集落にほど近い見晴らしのよい場所に立地し、敷地内での散歩が十分楽しめる広い敷地を有している。母体法人の精神科が隣接し、日常的に専門医の関わりがあり、医療面での安全・安心が確保されている。ホームは、高齢者の特性に配慮した構造となっており、広々として明るく落ち着いた雰囲気と清潔感が漂っている。利用者は現在のところ介護度が低いこともあり、表情も明るく、穏やかな暮らしが感じられた。職員は利用者と共に向きあい、明るく、懸命に支援している様子を感じとれた。管理者は、よく職員をまとめて、課題を改善し、介護サービスの向上に取り組まれている。職員一同の今後の活躍と、当事業所が、認知症高齢者が地域で安心した暮らしができるサービス拠点としてその役割を果たしていけることを大きく期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の取り組みについては、理事長、管理者、全職員が参加する会議を月1回開催し、改善状況について一つ一つ確認している。地域との交流、運営推進会議の開催、意見箱の設置等々、大部分の課題が改善されている。災害対策については、災害対応マニュアルは作成されており、消防署の協力を得て消防訓練を計画している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、ミーティングで話し合い、それを実施する意義や目的について確認し、日々のサービスを振り返りながら、管理者・職員全員で取り組み、管理者が自己評価を作成している。自己評価をとおして職員は、改善課題について気づき、その中で特にマニュアルの重要性を確認し、事故対応マニュアル等を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議をようやく立ち上げ、第1回会議が開催されている。会議においては、理事長から出席者へのお礼と今後の協力依頼、市の介護保険担当係長から運営推進会議の意義、目的、法的位置づけ等について説明が行われている。また、地域代表の自治会会長からも、自治会の年間行事計画の説明があり、今後の地域との交流について話し合いが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会議を年2回開催し、家族と事業所の意見交換の機会にしている。家族からの意見、苦情、不安等の訴えはなく、ホームでの暮らしに満足しているとの意見をいただいている。専門医の日常的な関わりや、普段から家族や管理者、主治医などの関係者が連携して適切な対応に努めており、特に医療面において安心・安全が確保されていることが不安要因の払拭につながっているようである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の敬老会やクリスマス会に自治会の会長や老人会の方々を招待し、一緒に祝ってもらっている。自治会からも敬老会への招待と余興の依頼があり、理事長はじめ、職員が出席し、とても喜ばれている。また、市主催のイベントや社協の生きがいデイサービス、利用者との交流、地域のグランドゴルフへ参加し、交流に努めている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事務所の理念4つと介護の理念7つを解りやすい言葉でつくりあげ、来訪者にも見やすいように居間に掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアにおいて理念を具体的に実践に生かすため、毎朝の申し送り、ミーティング時に全員で唱和し、日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市主催のイベントや行事への参加、社協の生きがいデイサービス利用者と交流している。地域の自治会や老人会への加入はしていないが、事業所の敬老会やクリスマスに自治会長や老人会が参加して交流に努めている。		近くの自治会や老人会に加入し、自治会活動等への積極的参加と、身近な地元の人々との交流促進が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と職員全員でつくりあげている。昨年の外部評価については、運営者、管理者、全職員が参加する会議を月1回開催し、課題解決に取り組んでいる。地域との交流、運営推進会議の開催、意見箱の設置等、大部分が改善されている。災害対策については「災害対応マニュアル」が作成されており、消防署による訓練を計画している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をようやく立ち上げ、第1回会議を11月28日に開催している。会議では、地域との交流のすずめ方や市の担当係長から運営推進会議の法的位置付け等の説明がなされている。また、地域代表委員から自治会の年間事業計画の説明があり、今後の地域との交流促進について話し合いが行われている。	○	外部評価結果については、運営推進会議にも公表し、委員の皆さんの意見をもらって欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者(ケアマネ)はたえず担当課に出向き、事業所の現況等を報告し、指導・指示を仰ぐ等、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「お便り帳」等は作っていないが、利用者の心身の状況の変化については、その都度個別に電話で報告し、必要に応じて来訪を求めたりして適切に対応している。職員の異動等については報告していない。金銭管理は家族の同意が得られず、行っていない。2人の利用者が日常生活自立支援事業制度を活用している。	○	定期的に「ホーム便り」を発行し、ホームでの暮らしの様子等、情報提供が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回(4月、12月)家族会を開催している。その際、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果を報告し意見をもらうようにしている。家族等からは事業所の対応に満足しているとの意見が多く、苦情は聞こえない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合は、利用者の職員交代によるダメージを押さえるため、引き継ぎの期間に十分な説明を繰り返し、納得してもらっている。これまでに、管理者1人、介護職員6人の離職がある。	○	運営者は、職員との話し合いの場を持ち、合意形成に努められ、働きやすい職場づくりを支援して欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で月1回勉強会(管理者を中心に)を実施しているが、外部研修等へ参加する機会はない。	○	全職員が働きながら学べる機会づくりが得られるよう、研修計画を作成し、計画的な取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会は少ないが、3カ所のグループホームの職員同士で交流会や勉強会を開催し、情報交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学や家族訪問による状況や情報を把握し、家族ともよく話し合い、本人が事業所に馴染めるかどうかを確認した上で入所に結びつけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や団らん、レクリエーション、散歩等、日常生活を共にしながら支えあう関係づくりに努めている。また、油味噌づくりやカラムシの紡み方など、利用者一人ひとりの得意な技や経験、知識を授かることが多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を自らの言葉で伝えることの困難な利用者に対しては、ぼろっと発する言葉や仕草、表情の変化等を観察し、希望や意向を推し量り、職員で話し合いながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、カンファレンスで居室担当職員から意見を発表してもらい介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化があるケースについては変更計画書が作成されているが、定期(6ヶ月毎)の見直しケースについては定期的な見直しが行われていない。	○	定期見直しケースについて、介護期間内に応じて見直しが行われることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が入院したりする場合は、職員と一緒に見舞いに連れて行くなどして支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医は、利用者等の希望を尊重している。9名の中、3名は協力医療機関が、6名は他の医療機関が主治医となっている。受診の際は、職員が付き添っている。他の1人は家族が付き添って受診させている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応マニュアルを11月に作成、職員にはその内容や対応方法について勉強会で周知を図っている。家族等に対しては今後説明を行うことにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース台帳は、事務室でキャビネットに収納し、管理している。利用者等の個人情報の保護を徹底するため、利用者からは、個人情報の利用目的を明記した同意書に署名捺印をもらっている。また、職員からは、入職時に誓約書を徴している。日常的なケアの場面においてもプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は行われていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、その日の利用者の状態や意向を十分把握して、一人ひとりのペースを尊重しつつ、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が一緒に同じテーブルを囲み、同じ食事をとっている。座る位置も決まっている。食事は全員自立しているが、要する時間はまちまちのため、一人ひとりのペースに添って、ゆっくり、しっかり側で見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間、回数は制限していない。入浴を拒む人には無理強いせず、時間をおきながら声をかけしたりして、タイミングを見計らい支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	もやしの髭とり、洗濯物たたみや草刈り、踊り、漢字の書き取り等、一人ひとりの得意な事、やりたい事、好きな事を汲みとり、力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地内の散歩や時々ドライブに出かけたりしている。隣近所とのつき合いはなく、外出の機会は少ない。	○	近くの住民との交流や、一緒に買い物やドライブ等、外出の機会を増やして欲しい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝6時から20時まで開錠しており、とても開放的である。帰宅願望の強い利用者が2~3人おり、出て行くこととする気配が感じられたら、リーダー(その日の担当)や職員で声かけや散歩と一緒に出かけたりして落ち着きを取り戻してもらおうよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「災害対応マニュアル」を作成して勉強会を開催、職員に周知を図っている。消防署による訓練を計画している。開設以来、避難訓練などの防災に関する取り組みは行われていない。	○	いざという時に備え、定期的な防災訓練の実施と、職員の「業務分担表」の作成が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食チェック表に記録し、水分の補給は10時、3時にお茶の時間を設けて飲水を促している。また、居間に常時お茶を準備しているほか、夏には冷蔵庫に麦茶を冷やしておき、いつでも飲めるような状態にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーで広々とした共用空間は、全体的に通風・採光に優れ、快適で利用しやすい設計となっている。居間には、テレビ、テーブルセット、ソファが配置され、利用者が思いおもいにゆったり寛げるように配慮されている。食堂にはクリスマスツリー、廊下にはイルミネーションが飾られ季節感を醸しだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の一部はタンス、テレビ、ラジオ、家族の写真等を持ち込んでいるが、虐待から逃れて入居している方もいて、利用者全員が持ち込みはしていない。家族の来訪時には、馴染みの品の持ち込みを呼びかけている。		